

ころばん体操出前講座 小瀬公民館

令和3年11月16日(火) 9:00～10:30

参加者 計 17 名 (男性3名 女性14名)

I. 講話 「 知って安心 訪問看護サービス 」

訪問看護ステーションさくら 所長 畑中 勇二

どんな状態の人も自宅で暮らしたいと思えば家で過ごせる手段があります。国も、医療費や介護費の出費を抑える為に在宅医療の体制づくりをすすめています。訪問看護は、医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたい人の希望に沿って24時間365日必要に応じて駆けつけます。自宅に訪問して健康状態のチェックやリハビリや入浴の介護、認知症の方の精神的な援助、お薬が管理できない人の援助を行っています。ご家族で看取るためのサポートをして、ご家族だけで見守りながら亡くられるケースが多いです。癌の患者さんは最後まで痛みを訴えるイメージがありますが、薬も開発されて痛みをかなり緩和して自宅で過ごすことが楽になっています。在宅医療は病気と闘うのではなく病気のその人に寄り添い、見守る医療です。

訪問看護は、～安心、お守り、訪問看護～と覚えてください。自宅という特別個室にいて必要な時に看護師さんが駆けつけるというイメージで訪問看護を知っていただきたいと思います。



【参加者の声】

病気になっても自分の家で暮らして行きたいです。・・約8割ほどが挙手される。

「その時になってみないとわからん・・考えは変わっでなあ」

最期は家で死にたいと思うけどできないんじゃないかと思う・・5～6名の方が挙手される。

最期がピンピンコロリで亡くなりたいたい・・皆さんが元気に挙手された。

色々、聞いてみたいことを話してもらった。すごく参考になった。

実家の母の病状を今思うと訪問看護を利用していたらよかったと思いました。

「今は元気だけど、これから先必要になるかもしれないよね・・」

皆さん日々、お元気にころばん体操をされている方々で在宅医療や介護については実感が薄いと反応でしたが、お話が進んでいく中癌の鎮痛剤麻薬についてや、家族での見取り、寄り添う医療について等一つ一つ肯いたり、ご意見や質問が出たり、興味深く聴いて頂きました。お帰りの際「今日はいいい話を聞いてよかった」といった感想もありました。